

アカデミックスキルズ

科目のねらい

本科目は、キャリア教養学科1年の通年必修科目であり、「コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得」することをねらいとする。

担当教員	山野実他キャリア教養学科全教員
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	45分×16回、90分×8回
単位数	2

授業の概要

キャリア教養学科の全教員が関わる。

短期大学で学ぶために必要なアカデミックスキルと基礎力の強化を目的とする。全員で学ぶ講義形式、輪講式、各顧問別の授業、体験型ワークショップ、プレゼンテーションなどの組み合わせによって、総合的な「学ぶ力」を養成する。

到達目標

本科目で学んだことを、常に他科目の学習やさまざまな場面で応用し、自らの「学びスタイル」を模索し、構築できる。

各回の内容

1. オリエンテーション ～アカデミックスキルズ前期の概要～ ノートテイキングの意義
 <全体学習> 演習：「今日の気づき」の可視化【課題有】
2. わたしにとってのノートテイキング ～個人プレゼンテーション～
 <顧問別学習> A3用紙で「私にとってのノートテイク」をプレゼンテーション
3. レジュメの活用法 ～レジュメとは何か～
 <全体学習> 【課題有】
4. 効果的なレジュメ ～個人プレゼンテーション～
 <顧問別学習> A3用紙で「効果的なレジュメ」をプレゼンテーションし共有する
5. 輪講式授業（第1週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
6. 輪講式授業（第2週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
7. 輪講式授業（第3週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
8. 輪講式授業（第4週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
9. 輪講式授業（第5週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
10. 輪講式授業（第6週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
11. 輪講式授業（第7週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
12. 輪講式授業（第8週目）8名の教員の専門分野に触れる：英語その1，経済，教育，英語その2，法律，図書館情報学，ICT，心理学：<指定教室>
13. 論文で使用する書き言葉とは
 <全体学習>：レポートや論文で使用する書き言葉を学ぶ
14. パワーポイント（PPT）活用法【初級編】
 <全体学習>：プレゼンテーション作成用ソフト活用の基本を学ぶ【課題有】
15. PPTを用いたプレゼンテーション ～前期アカスキの学びを通して得た教訓～
 <顧問別学習> PPTを用いた「前期の学びを通して私が得た教訓」のプレゼンテーション【課題有】
16. オリエンテーション ～アカデミックスキルズ後期の概要～：クリッカーの利用
 <全体学習> ビブリオバトルの概要とビブリオバトル教員デモンストレーションを含

アカデミックスキルズ

-
17. ビブリオバトル 顧問別予選
＜顧問別学習＞
-
18. ビブリオバトル CE1決戦：クリッカーの利用
＜全体学習＞
-
19. 読解力養成（1）
＜全体学習＞読み解く力を高める(1)【課題有】
-
20. 読解力養成（2）
＜全体学習＞読み解く力を高める(2)
-
21. 文章力養成（1）
＜全体学習＞書く力を高める(1)【課題有】
-
22. 文章力養成（2）
＜全体学習＞書く力を高める(2)
-
23. プレゼンテーショントレーニング（1）～パワーポイント（PPT）活用法【中級編】～
＜全体学習＞効果的なPPT作成のポイント【課題有】
-
24. プレゼンテーショントレーニング（2）～個人プレゼンテーション 「私の学術的興味&関心」～
＜顧問別学習＞PPTを用いた「私の学術的興味関心とは」のプレゼンテーション
-
25. 特別研究オリエンテーション
＜全体学習＞2年次の特別研究に対する心構えを含む進め方
-
26. 研究室訪問（1）
＜各自で訪問＞指定教室を訪れ質疑応答(1)
-
27. 研究室訪問（2）
＜各自で訪問＞指定教室を訪れ質疑応答(2)
-
28. アカデミックスキルズの総括 ～特別研究に向けて～
＜全体学習＞
-
29. 特別研究事前指導（1）研究目標の明確化
＜全体学習 2年次の顧問別学習＞課題の焦点化を含む
-
30. 特別研究事前指導（2）事前学修について
＜2年次の顧問別学習＞春期休業期間中の事前学修課題【課題有】
-

アカデミックスキルズ

準備学習（予習・復習等）

事前に指示されたことを予習する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、キャリア教養学科全教員が担当し、各教員の専門分野を踏まえて、通年に渡り実施する。特に高等教育機関で学んで問うという学問を探究していくための、基本的なスキルを、講義や輪講、ワークグループ形式で学ぶ。全体で学ぶ場合は、Room500を使用し、各顧問ごとの授業は指定された教室で実施する。

評価方法

前期15回、後期15回の振り返りシート及び課題提出
(記載内容により5点～0点、課題提出無い場合は0点)合計30回を70%に換算
出席状況および授業への参加態度30%(30点～0点)で、各顧問教員が評価

教科書

特になし。

参考文献

必要があればその都度、紹介する。

労働法制と人権

科目のねらい

コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得する

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

短期大学を卒業後、多くの学生が就職をする中、労働の現場ではブラック企業やハラスメント等、労働問題が後を絶たない。そこで、本授業では、就職後にトラブルに巻き込まれないように、労働に関する基本的な法知識と関連するケースを講義していく。また、労働問題を理解する前提となる基本的人権や契約に関する基礎知識も講義する。

また、講義で学んだ知識を定着させるため確認テストも実施する。

到達目標

- ・労働法の基本的な知識を習得することができるようになる
- ・基本的人権を理解することができるようになる
- ・労働問題に対し学んだ知識を使うことができるようになる
- ・現代の労働問題に対する具体的イメージが持てると共に、その問題の争点や様々な考え方を理解し、自分の意見を持つことができるようになる

各回の内容

1. 労働法と人権の基礎知識
～会社とは、労働法とは～
2. 基本的人権と労働～労働者の権利と企業の権利～
3. 労働契約に関する問題
4. 就業規則に関する問題
5. ハラスメントに関する問題
6. 人事異動に関する問題
7. 確認テスト
8. 賃金に関する問題（1）～賃金債権の発生と保護～
9. 賃金に関する問題（2）～賃金支払い形態と割増賃金～
10. 労働時間・休日に関する問題（1）～法定労働時間と所定労働時間～
11. 労働時間・休日に関する問題（2）～労働時間の弾力化・有給休暇～
12. 育児・介護休業制度
13. 雇用の終了に関する問題
14. 労働組合に関する問題
15. 確認テスト

労働法制と人権

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

主に遠隔講義を実施する（3回程度の対面講義あり）。

評価方法

確認テスト 70 %
リアクションペーパー 30 %

教科書

ワークルール検定 初級テキスト[第2版]一般社団法人日本ワークルール検定協会(編集) 旬報社(2020.4.1)
ワークルール検定-問題集2020年版 一般社団法人日本ワークルール検定協会(編集) 旬報社(2020.4.1)

参考文献

その都度、授業で紹介する

労働法制と人権

科目のねらい

自ら設定した課題について、多様な視点から建設的に考察することができる

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

労働法制と人権 で学んだ知識を基礎にして、更に労働法に対する知識を深めていく。ゲストスピーカーによる講話や現代の労働問題にも適宜触れ、考察する機会も設ける。

*労働法制と人権 を履修していることが、本科目の履修要件となる

到達目標

- ・労働問題に対し学んだ知識を使うことができるようになる
- ・現代の労働問題に関する課題を設定し、国内・県内での問題点や様々な考え方、他県や外国の状況を調査研究し、自分の意見を持つことができるようになる

各回の内容

1. グループ研究
～グループ研究とは何か、テーマの探索～

2. グループ研究
～テーマ決め・グループ決め～

3. グループ研究
～各自で調査してきたことをまとめる～

4. グループ研究
～資料の作成・提出～

5. 研究発表・予選

6. 研究発表・予選

7. 研究発表・本選

8. 就業規則・労使紛争の解決手続き

9. 労働契約
～採用及び労働契約上の権利義務、人事異動～

10. 賃金
～割増料金、賃金請求権の発生～

11. 労働時間と休日休暇
～労働時間、休業・休職制度～

12. 雇用の終了
～解雇・雇止め～

13. 労災保険
～制度概要と適用範囲～

14. 総復習及び問題演習

15. 確認テスト

労働法制と人権

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

配布資料や資格資料及びテキストを使用し、基礎知識を身につけていく。また、問題演習の機会も設け、使える知識の習得をする。

評価方法

確認テスト（50％）、リアクションペーパー（15％）プレゼン（35％）

教科書

ワークルール検定 初級テキスト[第2版]一般社団法人日本ワークルール検定協会(編集) 旬報社(2020.4.1)
ワークルール検定 中級テキスト[第2版]一般社団法人日本ワークルール検定協会(編集) 旬報社(2020.4.1)
ワークルール検定-問題集2020年版 一般社団法人日本ワークルール検定協会(編集) 旬報社(2020.4.1)

参考文献

その都度、授業で紹介する

経営学基礎

科目のねらい

コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得する

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

企業経営に関する理論を事例等を通して体系的に学ぶ。

到達目標

企業活動の背後にある企業の論理・考え方を理解する。
企業が抱える様々な課題に対して、自分なりに解決策を考えることができる。

各回の内容

1. 経営学とは
- 企業経営の全体像を理解する -
2. マーケティング(1)
- マーケティング・マネジメントの全体像を学ぶ -
3. マーケティング(2)
- 環境分析・ターゲティング等について学ぶ -
4. マーケティング(3)
- マーケティング・ミックスについて学ぶ -
5. マーケティング(4)
- B to Bマーケティングなどについて学ぶ -
6. ケース・スタディ
- マーケティング戦略を実際に考えてみる -
7. 経営戦略(1)
- 全社戦略について学ぶ -
8. 経営戦略(2)
- 業界分析について学ぶ -
9. 経営戦略(3)
- 事業戦略について学ぶ -
10. ケース・スタディ
- 経営戦略を実際に考えてみる -
11. 組織のマネジメント(1)
- 企業組織について学ぶ -
12. 組織のマネジメント(2)
- 企業の人事制度について学ぶ -
13. ケース・スタディ(4)
- 組織のマネジメントあり方について考えてみる -
14. 企業の社会的貢献
- 様々な企業の社会的貢献の現状について調べ理解する -
15. 企業倫理
- 事例を通して企業倫理について考える -
16. 試験

経営学基礎

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。

授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、確認テストを3回実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義形式を基本とするが、各回においてグループワークなど対話的に考える場面を設定する。

評価方法

試験 70%、確認テスト 30%、いずれも採点后に返却する

教科書

必要に応じ、レジュメや資料を配布する。

参考文献

伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版社
沼上幹（2008）『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣

地域形成論

科目のねらい

グローバル化する情報社会で必要とされる高度な教養を学ぶとともに、主体的に学び続けることで「なりたい自分」の実現に向けて行動できる力を養い、コミュニティに貢献できる人材を養成する科目である。特にコミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得することを目指す科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

「地域」を形成している要素は何か、そもそも「地域」「コミュニティ」とは何かを探る。

到達目標

「地域の活性化」などの授業を簡単に聞き流すことなく、情報を自分なりにキャッチし、分析しながら、新たな地域を形成していくための提案が出来るようになる。

各回の内容

1. なぜ、今、「地域形成」なのか～イントロダクション～（対面型授業）
2. 成熟社会とその課題（オンデマンド型）
3. 自然発生的地縁団体の役割（オンデマンド型）
4. 社会を支える諸団体（対面型でゲストスピーカーの講話を予定）
5. 地域のあるもの探し～KJ法を学ぶ～（オンデマンド型）
6. コーディネーターの必要性（オンデマンド型）
7. 事例からコーディネーターを学ぶ（zoomでゲストスピーカーの講話を予定）
8. 地域を「知る」「観る」とは何か(1)（zoomでゲストスピーカーの講話を予定）
9. 地域を「知る」「観る」とは何か(2)（zoomでゲストスピーカーの講話を予定）
10. 地域を「知る」「観る」とは何か(3)（zoomでゲストスピーカーの講話を予定）
11. ソーシャルデザインとは何か（オンデマンド型）
12. 地域形成への提案(1)～グループディスカッション～（zoomにて同時双方向型を予定）
13. 地域形成への提案(2)～ワールドカフェ～（zoomにて同時双方向型を予定）
14. 地域形成への提案(3)～プレゼンテーション～（zoomにて同時双方向型を予定）
15. 一歩踏み出す力を見つける（zoomにて同時双方向型を予定）
16. 論述試験

地域形成論

準備学習（予習・復習等）

地域づくりや復興に関するニュースや新聞記事、雑誌記事を集めておくこと。またその記事に関して、自ら考えたことをまとめおくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・ COVID-19感染拡大予防の観点より、基本的に遠隔授業とする。授業内容によって、オンデマンド型（Microsoft streamを活用予定）と同時双方向型（zoomを活用予定）を使い分ける。
- ・ なお対面型の講義、ゲストスピーカーによる講話も数回展開する予定。
- ・ グループワークに基づくプレゼンテーションも実施し、自らの意見のアウトプットも行う。
- ・ Office365の基本操作、zoomの基本操作については理解しておくこと。
- ・ なお、聴講デバイスの指定は特にしないがPCでの受講が望ましい。

評価方法

- ・ 振り返りシートにおける授業の理解度と論述内容30%（振り返り気づきの提出は、Microsoft Formsを活用予定）
- ・ グループプレゼンテーション20%
- ・ 論述試験50%

教科書

なし

参考文献

- ・ 石田光規 『孤立の社会学: 無縁社会の処方箋』 勁草書房、2011年
- ・ 寛裕介 『ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ』 英治出版、2013年
- ・ 河合雅司 『未来の年表 人口減少日本でこれから起きること』 講談社現代新書、2017年
- ・ 河合雅司 『未来の年表2 人口減少日本であなたに起きること』 (講談社現代新書、2018年

生涯学習概論

科目のねらい

グローバル化する情報社会で必要とされる高度な教養を学ぶとともに、主体的に学び続けることで「なりたい自分」の実現に向けて行動できる力を養い、コミュニティに貢献できる人材を養成するための科目である。特に、これからの社会における自分の役割を自覚し、常に学び続けながら自らの力を高めるための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

学歴社会から学習歴社会に移行して昨今、何を学び、その学びをどのように生かすのかが問われている。この授業では、生涯学習とは個人レベルの学習から地域づくりまで幅広く、民間や行政が様々な努力をして初めて生涯学習社会が構築されていくということを学んでいく。

到達目標

「ゆりかごから墓場まで」、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が評価されている社会において、個々人が自らの生きがいを見つけ、充実した人生を他者と共に学び合うことが生涯学習の主眼であることを理解できる。

各回の内容

1. 生涯学習の基本的な考え方
2. 生涯学習社会構築の必要性
3. 生涯学習社会構築への取り組み調査(1)
4. 生涯学習社会構築への取り組み調査(2)
5. 地域における社会教育・生涯学習施設(1)
6. 地域における社会教育・生涯学習施設(2)
7. 地域における社会教育・生涯学習施設(3)
8. 成人期の学習ニーズとボランティアリズム
9. 団塊世代と生涯学習
10. 高齢者の生涯学習と実践活動
11. 大学拡張論
12. 生涯学習プログラミングの実践(1)
13. 生涯学習プログラミングの実践(2)
14. 生涯学習プログラミングの実践(3)
15. 知識基盤社会と将来の展望
16. 論述試験

生涯学習概論

準備学習（予習・復習等）

生涯学習・成人教育・社会教育に関するニュースにアンテナを立て、自らまとめて、生涯学習プログラム調査などに備えること。また授業後の振り返りシートにも、最近のニュースで知り得た情報と関連付けた考察を書くこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・講義、ゲストスピーカーによる講話で授業を展開する。
- ・グループワークに基づくプレゼンテーションも実施し、自らの意見のアウトプットも行う。

評価方法

- ・振り返りシートにおける授業の理解度と論述内容30%
- ・グループワークへの貢献度20%
- ・グループプレゼンテーション20%
- ・論述試験30%

教科書

なし

参考文献

- ・堀薫夫、三輪建二編『生涯学習と自己実現(放送大学教材)』放送大学教育振興会、2006年。
- ・岩永雅也『現代の生涯学習(放送大学教材)』放送大学教育振興会、2012年。
- ・香川正弘、鈴木真理、永井健夫編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房、2016年。
- ・中原淳『働く大人のための「学び」の教科書』かんき出版、2018年。

キャリアマネジメント

科目のねらい

本科目は、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）、特に「社会における自分の役割を自覚し、常に学び続けながら自らの力を高めること」の獲得を目指す。

担当教員	加藤竜哉・山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

ライフキャリア、ワークキャリアを考えるために、まず自己理解を深める。次に問題解決対応能力や職業興味を考えながら、1年次後期の履修計画を立てる。

自立・自律の芽を作る。

到達目標

- 1)自己の持つ長所や傾向を客観的に分析・理解した上で自律学習に積極的に取り組むことができる。
- 2)職業興味を深めることができる。
- 3)タイムマネジメントとスケジュール管理の具体的手法を身につける、必要な1年次後期からの履修計画を立てることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、各目標、他科目との関係について、卒業までに獲得すべき能力
- 担当：加藤・山野 -
2. 20代を取り巻く社会を知る
- 担当：加藤，20代を取り巻く社会環境を理解し，グループワークで問題点を共有する -
3. 自己理解：自分を知り、他者を知る
- 担当：山野，グループワークを通して，自己理解・他者理解を深める -
4. 相互理解：コミュニケーションスキルの基本
- 担当：山野，グループワークを通して，相互理解を深める -
5. 自分の職業に対する興味を知る：業界とは，職種とは，働くとは？
- 担当：山野，簡易診断ツールを使い，自己の職業興味を知る -
6. キャリアワークショップ：事例から学ぶ
- 担当：加藤，グループワークを通じて，自己の考えと他者の考えを整理する -
7. キャリアワークショップ：事例を共有する
- 担当：加藤，グループワークを通じて，共有した考えや問題を，整理・プレゼンする -
8. 職業興味を深める
- 担当：山野，グループワークを通して，企業や公務員の仕事内容を理解する -
9. どんな資格、どんな学問
- 担当：山野，グループワークを通して，自己実現に関係の深い学問や資格を理解する -
10. 上手な悩み方とは
- 担当：加藤，グループワークを通して，悩みや問題の捉え方を理解する -
11. 問題に対する対応を考える
- 担当：加藤，問題に対するうち手を考える -
12. 長期的な目標と短期的な目標設定
- 担当：加藤，目標設定の仕方を理解する -
13. 計画力をつける：スケジュール演習（1）【課題提出有】
- 担当：加藤，目標を立て，実行し，振り返る -
14. 計画力をつける：スケジュール演習（2）【課題提出有】
- 担当：加藤，目標を立て，実行し，振り返る -
15. 進路決定と1年後半の履修計画：後期授業とのかかわりについて
- 担当，山野，加藤 -

キャリアマネジメント

準備学習（予習・復習等）

事前事後：

毎回の授業で課された課題をもとに授業を展開することになるので、指示された課題作成し、忘れずに持参すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

ワークグループ主体で行う。学びをチームビルディングにより深める。自己のキャリアをマネジメントできるための、知識学習も含む。複数の教員で担当する（担当回は、内容を参照）。

評価方法

- 1) 参加態度75%：毎回レビューシートに学習内容の気づきや振り返りを記入して提出(各回5点×15回)。
- 2) 課題レポート25%：レポート課題は授業時に紹介。各教員の評価値合計を平均して評価点を算出する。

教科書

なし

適宜、プリント配布

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書

渡辺健介『世界一やさしい問題解決の授業』ダイヤモンド社

簿記入門

科目のねらい

簿記の初学者を対象に、簿記の基礎として、簿記の目的や企業で用いられている複式簿記について理解し、企業における経営活動が、取引の仕訳や勘定への転記、決算処理に至るまで、簿記のさまざまなルールに基づき、一連の手続きが行われていることを理解する。さらに、企業の一定時点の財政状態を表す貸借対照表や一定期間の経営成績を表す損益計算書等の財務諸表を作成できる知識と技能を身につけるための科目である。

担当教員	喜多見 薫
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年（簿記初学者）
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

簿記の基礎として、簿記の目的や企業で用いられている複式簿記について学ぶ。教科書と問題集を併用し、講義と問題演習を同時に行うことにより、より深い理解を得ることを目指す。（簿記初学者が対象なので、丁寧にわかりやすく講義を行う。）

到達目標

簿記の目的である企業における一定時点の財政状態や、一定期間の経営成績を明らかにするために、企業における様々な経営活動を帳簿に記録・計算・整理する方法としての簿記の基礎を理解し、日商簿記3級に合格できる実力を身に付け、受講者全員の日商簿記3級合格を目指す。

各回の内容

1. 簿記の基礎

2. 商品売買

3. 現金預金

4. 手形と電子記録債権（債務）

5. 有形固定資産

6. その他の取引

7. その他の取引

8. 帳簿

9. 帳簿

10. 試算表

11. 試算表

12. 伝票と仕訳日計表

13. 決算手続

14. 決算手続

15. 決算手続

16. 試験

簿記入門

準備学習（予習・復習等）

予習（教科書の次回の学習範囲に目を通し、2回以上読んでから講義に臨む）

復習（講義の復習として指示された問題等の解答を必ず行う）

予習以上に復習（問題解答）に時間をかける

計算手段として電卓（12桁表示）を準備する。（携帯電話・スマートフォン等は不可）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

業種・職種にかかわらずビジネスパーソンが身につけておくべき「必須の基礎知識」として、なぜ、簿記の知識が求められるのかを、企業が果たすべき社会的責任の視点から、簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技能を身につける。

評価方法

試験60%、授業の中で実施する小テスト30%、課題等10%

教科書

滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書（日商簿記3級 商業簿記）』TAC出版

滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の問題集（日商簿記3級 商業簿記）』TAC出版

最新版（新出題区分完全対応・今年度の試験範囲にしっかり対応）のものをそれぞれ準備する。 各1,100円（税込）

参考文献

必要に応じて、授業で紹介する。

キャリア形成論

科目のねらい

グローバル化する情報社会で必要とされる高度な教養を学ぶとともに、主体的に学び続けることで「なりたい自分」の実現に向けて行動できる力を養うための科目である。特に自ら設定した課題について、多様な視点から建設的に考察することができる力を身に着けるための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

1年生後期から具体的に準備段階に入る就職活動や編入対策に向けて、将来を見通した選択が出来るように、社会人とは何か、人生設計とは何か、自立とは何かを考えていく。

到達目標

一人ひとりが平等に与えられる24時間という「時間」を意識的に捉え、将来を見据えた計画の重要性、学び続けることの重要性が理解出来る。また計画を愚直に具体的なアクションへ移そうという意識へ変換が出来る。

各回の内容

1. ライフキャリアとワークキャリア～イントロダクション～
2. リベラルアーツとラーニング・ブリッジング（オンデマンド型）
3. タイムマネジメント（1）～何がムダを作るのか～（オンデマンド型）
4. タイムマネジメント（2）～手帳学に触れよう～（同時双方向型）
5. 計画的偶発性理論を学ぶ（zoomによるゲストスピーカーの講話）
6. 女性の活躍と日本社会の課題（オンデマンド型）
7. キャリアを積むとはどういうことか（zoomによるゲストスピーカーの講話）
8. AIと未来（オンデマンド型）
9. 21世紀に求められる能力（オンデマンド型）
10. 自分の軸を持つということ（zoomによるゲストスピーカーの講話）
11. 藤本篤史『社畜のススメ』（新潮新書・2011年）、瀧本哲史（講談社・2011年）を読み解く（オンデマンド型）
12. 多様な働き方の模索（1）～グループディスカッション～（zoomによる同時双方向型）
13. 多様な働き方の模索（2）～プレゼンテーション1～（zoomによる同時双方向型）
14. 多様な働き方の模索（3）～プレゼンテーション2～（zoomによる同時双方向型）
15. 未来を創るキャリアデザイン～アンテナの立て方～（zoomによる同時双方向型）
16. 論述試験

キャリア形成論

準備学習（予習・復習等）

「働き方」「女性の活躍推進」など、現代社会において議論になっている課題について調べておくこと。また、自らのライフキャリアデザインのヒントになるようなニュースや記事を常にまとめておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・ COVID-19感染拡大予防の観点より、基本的に遠隔授業とする。授業内容によって、オンデマンド型（Microsoft streamを活用予定）と同時双方向型（zoomを活用予定）を使い分ける。
- ・ なおCOVID-19感染拡大の収束状況によっては、対面型の講義、ゲストスピーカーによる講話も数回展開する予定。
- ・ Office365の基本操作、zoomの基本操作については理解しておくこと。
- ・ なお、聴講デバイスの指定は特にしないがPCでの受講が望ましい。

特に第14講、第15講においては、会社経営という実務経験を踏まえて、授業を展開する。

評価方法

- ・ プレゼンテーションにおけるグループへの貢献度、プレゼン態度、プレゼン内容30%
- ・ 振り返りシートにおける授業の理解度30%（振り返り気づきの提出は、Microsoft Formsを活用予定）
- ・ 論述内容40%
- ・ 論述試験30%

教科書

なし

参考文献

- ・ 滝本哲史 『僕は君たちに武器を配りたい』講談社、2011年。
- ・ 藤原和博 『藤原先生、これからの働き方について教えてください。』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年。
- ・ 渡辺秀和 『未来をつくるキャリアの授業』日経ビジネス人文庫、2017年
- ・ 吉松隆 『ドラッカーの時間管理術』アチーブメント出版、2017年
- ・ 高塚苑美 『超一流の手帳はなぜ空白が多いのか』SBクリエイティブ、2017年
- ・ 中原淳 『働く大人のための「学び」の教科書』かんき出版、2018年。
- ・ 堀江貴文・落合陽一 『10年後の仕事図鑑』SBクリエイティブ、2018年
- ・ 山口周 『ニュータイプの時代』ダイヤモンド社、2019年
- ・ そのほか、授業内容に合わせてその都度、紹介する。

プランニング入門

科目のねらい

グローバル化する情報社会で必要とされる高度な教養を学ぶとともに、主体的に学び続けることで「なりたい自分」の実現に向けて行動できる力を養い、コミュニティに貢献できる人材を養成するための科目である。特に、多様な人とつながるコミュニケーション力と真摯な態度を修得するための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

一つのアイデアを放射線状に拡大する思考力の向上、およびゴール設定から現在の行動を計画するバックキャスト思考の向上を根幹に置く。新たなアイデアやフレームを創出し提案する力、それを実行に移すまでの逆算思考力は、将来非常に重視される力を育成する。

到達目標

事業やイベントを企画したり、複数の事業を繋げるプランナーという仕事を、理論と演習を通して理解することが出来る。

各回の内容

1. 本授業の目的と詳細～プランナーとは何か～
2. リーダーが持つべき視点
3. カレッジプランナー演習(1)～全体俯瞰力～
4. カレッジプランナー演習(2)～傾聴力～
5. カレッジプランナー演習(3)～役割の重要性～
6. カレッジプランナー演習(4)～コミュニケーションの重要性～
7. ラフプランニング演習(1)～課題の発見～
8. ラフプランニング演習(2)～アイデア出し～
9. ラフプランニング演習(3)～ワールドカフェとブラッシュアップ～
10. ラフプランニング演習(4)～プレゼンテーション～
11. 逆算思考と積上思考
12. 個人のビジョンづくり(1)～なぜビジョンが必要か～
13. 個人のビジョンづくり(2)～ビジョンの具体化～
14. 個人のビジョンづくり(3)～プライオリティの重要性～
15. プランニングにおける重要な力とは
16. 論述試験

プランニング入門

準備学習（予習・復習等）

雑誌、テレビ、地機活性企画にアンテナを立てておく。

自らのやりたいこと、ビジョンを常に探せるように、21世紀の社会動向、変動に敏感になっておく。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義、グループワークに基づくプレゼンテーションも実施し、自らの意見のアウトプットも行う。

評価方法

- ・振り返りシートにおける授業の理解度と論述内容30%
- ・グループワークへの貢献度20%
- ・グループプレゼンテーション20%
- ・論述試験30%

教科書

なし

参考文献

- ・ジェームスW.ヤング（著）、今井茂雄（訳）『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス、1988年
- ・竹島慎一郎『「おでん屋」で企画書の書き方を学ぶ』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2012年

TOEIC演習

科目のねらい

This class will focus on the listening section of the TOEIC test. Through weekly listening practice of native English conversations and speeches, students will learn the skills needed to improve their own listening comprehension. The skills learned can be transferred to the working world or any situation where dialogues with native speakers are necessary.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

This class will focus on the listening section of the TOEIC test. Each week will cover step-by-step skills development. Mini-tests will be given after each part. This course will be conducted all in English.

到達目標

Students will understand the parts of the TOEIC listening test.
Learners will gain knowledge of basic listening techniques.
Students will improve individual test scores (with a target of at least 500).

各回の内容

1. Introduction to Accents / TOEIC Listening Test (1)

2. Part 1 (Introduction)

3. Part 1 (Photographs)

4. Part 1 (Photographs)

5. Part 1 (Review) / Part 2 (Introduction)

6. Part 2 (Question-Response)

7. Part 2 (Question-Response)

8. Part 2 (Review) / Part 3 (Introduction)

9. Part 3 (Short Conversations)

10. Part 3 (Short Conversations)

11. Part 3 (Review) / Part 4 (Introduction)

12. Part 4 (Short Talks)

13. Part 4 (Short Talks)

14. Part 4 (Review)

15. TOEIC Listening Test (2)

TOEIC演習

準備学習（予習・復習等）

（予習） Do the weekly online listening activities and complete the individual e-learning problems.

（復習） Review the answers to the listening and the in-class activities.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

All classwork will be submitted online through QR codes. Each class will use active learning (and listening) in small groups so that students can utilize the skills that they learn on their own.

評価方法

Listening Test Improvement 30%,

Listening Homework 20%, E-learning 20%

Review Tests 20%, Participation 10%

教科書

「Pass the TOEIC Test (Introductory Course)」 First Press ELT

参考文献

リーディングスキルズ

科目のねらい

This course will allow students to acquire an advanced level of writing skills in English. The readings covered in the textbook will be used as a model for students' own compositions. The topics discussed will cover the students' own lives and experiences in Fukushima or Japan. The goal of the course is to produce writing that expresses students' own opinions strongly as well as explains them to readers in a logical and easy to understand way.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

今年度のクラスは2つに分かれます： 対面式 遠隔式

詳しい内容は授業の初日に説明します。

到達目標

Students will improve their reading ability and comprehension.
Learners will practice their pronunciation with each other.
Extensive reading material will be used for reading practice.

各回の内容

1. Course introduction & Unit 1 introduction
Point: Topic sentences and paragraphs
2. Unit 1 review & Unit 2 introduction
Point: Cause and effect
3. Unit 2 review & Unit 3 introduction
Point: Talking about experiences
4. Unit 3 review & Unit 4 introduction
Point: Explaining through steps
5. Unit 4 review & Unit 6 introduction
Point: Explaining a process
6. Unit 6 review & Unit 8 introduction
Point: Defining and giving examples
7. Unit 8 review & midterm discussion
8. Midterm Review
9. Midterm follow-up & Unit 9 introduction
Point: Expressing information efficiently
10. Unit 9 review & Unit 11 introduction
Point: Giving a speech
11. Unit 11 review & Unit 12 introduction
Point: Understanding communication styles
12. Unit 12 review & Unit 13 introduction
Point: Giving advice
13. Unit 13 review & Unit 15 introduction
Point: Reporting results and information
14. Unit 15 review & final discussion
15. Final Review
16. Final Class

リーディングスキルズ

準備学習（予習・復習等）

(Preview) Study the necessary vocabulary words for each unit and listen to the CD in order to practice pronunciation for in-class choral and pair reading.

(Review) Answer the comprehension questions for each reading, complete the English writing when necessary, and review the answers to the in-class activities.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

今年度のクラスは2つに分かれます： 対面式 遠隔式

詳しい内容は授業の初日に説明します。

評価方法

Midterm Review 25%, Final Review 25%,
Vocabulary Quizzes 15%, Textbook Homework 15%,
Extensive Reading 10%, Class Participation 10%

教科書

「Reading Stream: Elementary」金星堂

参考文献

リーディングスキルズ

科目のねらい

Given practice with essential vocabulary via authentic topics, to be able to read more strategically and think critically.

担当教員	ルーパジェイソン
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 x 15回
単位数	2

授業の概要

Reading and listening skills with a focus on vocabulary building and comprehension.

到達目標

Rubric-based scoring guideline. Details TBA

各回の内容

1. Introduction of class expectations and evaluative criteria (Rubric). Self-introductions and Unit 1: Natural World (Animals). Reading Skill: Understanding the gist, Vocab building tasks
2. Unit 1: Reading Skill: Identify Main Ideas, Vocab building tasks Listening/Reading Comprehension tasks
3. Unit 2: Travel/Adventure: Reading Skill: Understanding Maps, Vocab building tasks
4. Unit 2: Reading Skill: Find Key Details, Listening/Reading Comprehension tasks
5. Unit 3: Music. Reading Skill: Classifying Information, Vocab building tasks
6. Unit 3: Reading Skill: Identifying Reasons (1), Listening/Reading Comp. tasks
7. Unit 4: Space. Reading Skill: Summarizing Info w/Concept Map. Vocabulary building tasks
8. Unit 4: Reading Skill: Identifying Reasons (2), Listening/Speaking Comp. tasks
9. Mid-term Review
10. Unit 5: Small Life/Biology. Reading Skill: Understand Charts/Graphs. Vocabulary building tasks
11. Unit 5: Reading Skill: The use of Direct Quotes, Listening/Speaking Comp. tasks
12. Unit 6: Stories/Storytelling. Reading Skill: Annotating Text. Vocabulary building tasks
13. Unit 6: Reading Skill: Understanding Pronouns references. Listening/Speaking Comp. tasks
14. Unit 7: Uncovering the Past. Reading Skill: Identifying Homonyms. Vocabulary building tasks
15. Unit 7: Reading Skill: Creating an Outline Summary. Listening/Speaking Comp. tasks
16. Final (Units 5-7)

リーディングスキルズ

準備学習（予習・復習等）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

Develop improved English reading listening proficiency via strategic vocabulary building exercises

評価方法

Mid-term:25%; Final: 25%; Reading Skills quizzes:20%; Listening/Speaking Comp tasks: 20%; Participation: 10%

教科書

Reading Explorer I (2nd Ed.), National Geographic Learning/Cengage

参考文献

観光英語

科目のねらい

本科目は多様な人とつながるコミュニケーション力と真摯な態度を取得するための科目である。英語を使ったコミュニケーションや、必要な情報を読み取る能力、また、多様な人々とコミュニケーションをとるのに必要な素養も身につける。また様々な国の文化や習慣、地理や歴史などについての知識も深める。

担当教員	佐藤純子 野崎佐知
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

本科目は旅行者として必要な表現や、観光業で用いられる一般的な会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定3級取得を目指す授業である。英語の知識だけでなく、観光に関わる知識についても広く学習する。英検3級以上又は英語 単位取得者が望ましい。

到達目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要となる専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化(国内外・異文化)、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. オリエンテーション、レベルチェックテスト(観光英語検定過去問題) part1

2. レベルチェックテスト(観光英語検定過去問題) part2

3. Unit1 Travel

4. Unit2 Jobs and People

5. Unit3 Getting on the Plane

6. Unit4 At the Immigration and Customs

7. Unit5 At the Airport

8. Unit6 Hotel(Accommodations)

9. 中間テスト

10. Unit7 Restaurant (Breakfast and Fast Food)

11. Unit8 Sightseeing

12. Unit9 Shopping

13. Unit10 Transportation

14. Unit11 Problems and Complain

15. まとめ

16. 期末テスト

観光英語

準備学習（予習・復習等）

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。リーディング問題と講義で指示がある部分については自己学習とし、模範解答で知識を確認する。英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義形式だけでなく、ペアワークやグループワークも行う。
プレゼンテーションなどの課題も行う。

評価方法

単語テスト20%、中間テスト30%、学期末テスト30%、課題20%
(期末試験の返却は掲示で連絡する)

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編『ENGLISH FOR TOURISM Basic』三修社

参考文献

その都度授業で紹介する

英語演習 (Basic)

科目のねらい

本科目は、言語文化とコミュニケーションについて理解を深め、文化間の交流で生じる課題や機会に向かい合うために必要な身につけることで、多彩な人とつながるコミュニケーション力と真摯な態度の養成を目指す科目である。(DP 6)

担当教員	高橋未希
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	時間数 90分 × 15回
単位数	2

授業の概要

英語初級学習者を対象に、様々な日常の場面で必要となる会話表現を理解する。
言語と文化に関するコミュニケーションの方略について理解し、実際に活用できる力を養成する。
自身のコミュニケーション方略を異文化を通して客観的に捉えなおし、異質なものに対する寛容性を醸成する

到達目標

言語や文化の違いから起こるコミュニケーション上の相違点について理解することができる。
英会話を理解する上で必要になる会話文や語彙について学習し、運用することができる。
他人や多文化を持つ人に敬意を持ち、相応しい態度で効果的に交流することができる。

各回の内容

1. Introduction Lesson1・2・3 (入門)

2. Lesson1・2・3 (応用)

3. Lesson1・2・3 (発展)

4. Lesson4・5・6・7 (入門)

5. Lesson4・5・6・7 (応用)

6. Lesson4・5・6・7 (発展)

7. Lesson 1 ~ 7 総括
文化とコミュニケーションスタイルの違いについて

8. まとめテスト

9. Lesson 8・9・10・11・12 (入門)

10. Lesson 8・9・10・11・12(応用)

11. Lesson 8・9・10・11・12 (発展)

12. Lesson12・13・14・15・16 (入門)

13. Lesson12・13・14・15・16 (応用)

14. Lesson12・13・14・15・16 (発展)

15. Lesson8-15総括
文脈依存度と言語利用の関係について

16. 試験

英語演習 (Basic)

準備学習 (予習・復習等)

- 毎週課される宿題を終わらせておくこと。
- 小テスト対策のために各自準備に励むこと
- 授業内で自分の課題を明確にしておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- 各回において、ペアワークやグループワーク、ロールプレイ等対話的な学習機会を設定する。
- スライドや視覚教材等を用いながら、授業者の実践事例や経験を活用する。
- 担当教員は、中学・高等学校で英語学習の指導及び英語を使用して授業を担当した実務経験を基に、英語学習の指導及び異文化に関する学びを深める。

評価方法

Paper Test (試験) 50%、
Mini test (小テスト) 30%、
Class Participation (参加態度/課題遂行度) 10%
振り返りシートの感想 10%

教科書

Keep Talking(桐原書店)

参考文献

必要に応じて指示する。

キャリア教養特講

科目のねらい

This course will allow students to acquire an advanced level of writing skills in English. The readings covered in the textbook will be used as a model for students' own compositions. The topics discussed will cover the students' own lives and experiences in Fukushima or Japan. The goal of the course is to produce writing that expresses students' own opinions strongly as well as explains them to readers in a logical and easy to understand way.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 x 15回
単位数	2

授業の概要

This is a class for students who would like to write advanced essays and reports in English. Writing assignments will review skills learned outside of class. Reading comprehension will also be checked through weekly homework assignments. Listening will be done in-class through Dictogloss activities. THIS CLASS WILL BE CONDUCTED ALL IN ENGLISH.

到達目標

Students will learn the skills needed to write multi-page English papers that express their opinions with clear examples and evidence. Learners will improve their reading comprehension through university-level weekly textbook assignments and advanced listening skills through Dictogloss activities. Students will increase their creativity by being active writers that produce weekly compositions on a variety of topics and structures.

各回の内容

1. Course introduction

2. Unit 1 (A Restaurant for Change)
Writing #1 (A time someone did something kind for you)

3. Unit 2 (Computer Beats Champs)
Writing #2 (A time you were successful at something)

4. Unit 3 (Want to Study Abroad?)
Writing #3 (An advertisement for high school students)

5. Unit 4 (A Student Budget)
Writing #4 (Advice for a student coming to Japan)

6. Unit 5 (Cell Phone Etiquette)
Writing #5 (A reply to a letter to the newspaper)

7. Unit 6 (The Olympic Flame)
Writing #6 (An event you participated in)

8. Midterm Review (Units 1-6)

9. Unit 7 (The World's Oldest Universities)
Writing #7 (About Japanese history)

10. Unit 8 (Which English Will We Speak?)
Writing #8 (Introducing Japanese writing)

11. Unit 9 (How Do You Celebrate?)
Writing #9 (Public holidays in Japan)

12. Unit 10 (The Age of Adulthood)
Writing #10 (Coming of Age Day)

13. Unit 11 (Are you an Ophiuchus?)
Writing #11 (Recent news events in Japan)

14. Unit 12 (A Japanese Folktale)
Writing #12 (A story with a message)

15. Final Review (Units 7-12)

16. Final Discussion (Final Composition)

キャリア教養特講

準備学習（予習・復習等）

(Preview) Watch the online lesson to acquire necessary writing skills, read the text and answer the comprehension questions, write an essay on the given topic (using the skills learned online) and bring it to class.

(Review) Read classmates' comments and teacher's corrections on the weekly essay, rewrite the essay using the advice received, review the answers to the textbook questions.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

Students will use a QR code to access an online video lesson that explains the textbook content and writing skills needed for the composition. Another QR code is used to submit the answers to the textbook questions. Students write an English composition each week and bring it to class. The time in class is used for Dictogloss and group discussion, review of the main writing points and textbook answers, and peer evaluation of each other's compositions.

評価方法

Weekly writing assignments 30%, Midterm Review 20%, Final Review 20%, Textbook Homework 20%, Class Participation 10%
(Test answers will be discussed in the following class. Writing assignments will be returned before the test day.)

教科書

「Active Skills for Reading 1」 Cengage Learning

参考文献

キャリア教養特講

科目のねらい

グローバル化する情報社会で必要とされる高度な教養を学ぶとともに、主体的に学び続けることで「なりたい自分」の実現に向けて行動できる力を養う科目である。特にホスピタリティを必要とされる場面において、多様な人とつながるコミュニケーション力と真摯な態度を修得するための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年生・2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

今や、サービス産業（第3次産業）のGDP、雇用のシェアは7割程度を占める重要な産業である。一方、生産性の向上、効率化、過労死の阻止を目指した「働き方改革」も推進されている。

本授業では、グローバル社会における日本の産業構造を学びながら、サービス業の通底している「ホスピタリティ」とは何なのかを追究する。

到達目標

日常生活に欠かせないサービス業の背景には、どのような仕組みがあり、どのような構造で成り立っているのかを知ろうとする知的な視点を持つことが出来る。また自分自身とのライフキャリアプランと社会を繋げる力を身に付けることが出来る。

各回の内容

1. なぜサービス業を学ぶのか～イントロダクションにかえて～
2. コンビニ論1～マーケティング論～（オンデマンド型）
3. コンビニ論2～ストアコンパゾン論～（オンデマンド型）
4. スタアコンパゾン～演習～（zoomによる同時双方向型）
5. コンビニ論3～コンビニが投げかけた問題～（zoomによる同時双方向型）
6. 理美容業の世界1（オンデマンド型）
7. 理美容業の世界2～ゲストスピーカーから現場を聞く～（オンデマンド型）
8. ディズニーリゾートを考える1～ミッション論～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
9. ディズニーリゾートを考える2～人材育成論～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
10. ディズニーリゾートを考える3～自ら考える力～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
11. ディズニーリゾートを考える4～アンテナの立て方～（CEセミナー事前授業としても位置付けしています）（zoomによる同時双方向型）
12. ECと物流（オンデマンド型）
13. 過剰サービスと感情労働（オンデマンド型）
14. 日本人の精神性とホスピタリティ（zoomによる同時双方向型）
15. これからの私たちとサービス業～まとめにかえて～（zoomによる同時双方向型）
16. 論述試験

キャリア教養特講

準備学習（予習・復習等）

ディズニー、コンビニ、EC、物流に関するニュースにアンテナを立てておくこと。その都度、指示された日時には、そのニュースをまとめプレゼンできるようにしておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・ COVID-19感染拡大予防の観点より、基本的に遠隔授業とする。授業内容によって、オンデマンド型（Microsoft streamを活用予定）と同時双方向型（zoomを活用予定）を使い分ける。
- ・ Office365の基本操作、zoomの基本操作については理解しておくこと。
- ・ なお、聴講デバイスの指定は特にしないがPCでの受講が望ましい。

評価方法

- ・ 振り返りシートの記述内容30%（振り返り気づきの提出は、Microsoft Formsを活用予定）
- ・ チームワークへの態度と主体性（プレゼンテーションなども含む）20%
- ・ 最終論述試験50%

教科書

なし

参考文献

- ・ A.R. ホックシールド (著), Arlie R. Hochschild (原著), 石川 准 (翻訳), 室伏 亜希 (翻訳) 『管理される心 感情が商品になるとき』世界思想社、2000年。
- ・ 谷本真由美 『不寛容社会 - 「腹立つ日本人」の研究』ワニブックス、2017年。
- ・ 新井克弥 『ディズニーランドの社会学 脱ディズニー化するTDR』青弓社、2018年。
- ・ 田村尚子 『感情労働マネジメント 対人サービスで働く人々の組織的支援』生産性出版、2018年。
- ・ ムーギー・キム&プロジェクトディズニー 『最強のディズニーレッスン 世界中のグローバルエリートがディズニーで学んだ50箇条の魔法の仕事術』フォレスト出版、2018年。

キャリア教養特講

科目のねらい

コミュニティの課題を発見して、それを解決していけるような高度で幅広い教養を修得する

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

ファイナンシャル・プランニング（人生設計に基づいて資金計画を立てること）に関する基礎知識を学ぶ。

到達目標

ファイナンシャル・プランニング技能検定試験（3級）の勉強を開始するのに必要な基礎知識を理解する。

各回の内容

1. ファイナンシャル・プランニングとは
- ファイナンシャル・プランニングの目的・意義について学ぶ -
2. お金を知る
- お金の役割等について学ぶ -
3. お金を稼ぐ・使う
- 働き方やお金の使い方について考える -
4. お金を貯める・増やす・借りる
- 資産運用の方法や利息について学ぶ -
5. ライフプランニングと資金計画（1）
- ファイナンシャル・プランニングの基本的考え方について学ぶ -
6. ライフプランニングと資金計画（2）
- 健康保険について学ぶ -
7. ライフプランニングと資金計画（3）
- 公的年金について学ぶ -
8. リスク管理（1）
- 生命保険について学ぶ -
9. リスク管理（2）
- 損害保険について学ぶ -
10. 金融資産運用（1）
- 金融の基礎知識について学ぶ -
11. 金融資産運用（2）
- 金融商品について学ぶ -
12. タックスプランニング（1）
- 所得税の基礎知識について学ぶ -
13. タックスプランニング（2）
- 所得税額の算出方法等について学ぶ -
14. 不動産
- 不動産に関する法令等について学ぶ -
15. 相続・事業継承
- 相続税のしくみについて学ぶ -
16. 試験

キャリア教養特講

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、理解度を確認するために、確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

面接授業及び遠隔授業（オンデマンド型）により実施する。

評価方法

試験 40%、確認テスト 40%、レポート 20%、いずれも採点后に返却する

教科書

日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編 『ファイナンシャル・プランニング入門』

参考文献

日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編 『パーソナルファイナンス』